

海 (かいし) 市 No. 32

● 詩

- 02 前田 勉 南西の風吹く朝に
04 横山 仁 生活の柄 (26)

● エッセイ

- 06 細部俊作 『深い穴に落ちてしまった』
の謎
09 佐藤ただし 水田とツバメ (30)
13 横山 仁 雑記 (32)

南西の風吹く朝に

前田 勉

樟脳の

かすかな匂いの記憶がよみがえった

朝

昨夜からの

どこか曖昧に傾^かいでいた想いが

南西からの風に圧され

窓の隙間から射す細い光りのすじに沿って

大気へと吸引されてゆく

巻き戻すことのできない

途切れてしまったあたりで

言い忘れてしまったもの
も

無意識に逃れようとしていたもの
も

綿毛のように

ゆつたりと

かすかに

かすかな

透きとおった風の流れに舞いながら
光りのすじへ入ってゆく

ここに居る

と

自分を確認することさえできれば
また新しい今日へと連なって

南西の風に

朝の挨拶をする

生活の柄 (26)

横山 仁

近所では 花博士とよばれていた
らしい 老母は

花に ネームプレートをつけないで
逝ってしまった

残された坪庭つぼ(雑草園)の花を

グーグルレンズで検索して
似たものを

ひとつずつ ひとつずつ
記憶していく

不意に

中島みゆきのうたがきこえてきた

♪知らない言葉を覚えるたびに

僕らは大人に近くなる

けれど最後まで覚えられない

言葉もきつとある

(「命の別名」)

すぐに 忘れてしまいかもしれない
が 少しずつ

老母に 近づいているのだろう

『深い穴に落ちてしまった』の謎

細部 俊作

イバン・レピラ著 白川貴子訳

二〇二三年四月刊 創元推理文庫

穴に落とされてしまった、と想像してみる。それは恐怖以外の何ものでもない。なぜ、だれがオレを、という問いにこたえる声は聞こえない。ここに有害な生き物はいるのか、穴は深ければ深いほど明かりは遠く、暗闇は濃くなる。穴の口が頭上に見えるがどうやって脱出しようか。大声で叫んで救いを求める。だれか気づいてほしい。暗闇の中でひとびとから断絶したところにいるはめになって、食べ物もない。これは恐怖以外の何ものでもない。ただ、この本はドキュメンタリー

でも体験談でもなく、いくつもの謎にぶつかりながら穴から外へと話が展開してゆく物語だ。

物語の中にある謎のいくつかは、いきさつや理由がわからず、結果のみが語られているところにある。たとえば、兄弟はなぜ穴に落ちることになったのかなどがわからない。そのほか、全編で二六ある章につけられた番号に素数だけがつけられているのはなぜか、弟がつぶやく二〇個の数は何をあらわしているのか、といった謎も仕掛けられていて、そのどちらも解けなかった。

この「穴」というのは、物理的に地上に空いた穴をさす以外に、自分や社会の状況を感覚的に何かに「陥っている」と感じ、そこから脱出できない様子を語るときに、その場所を比喩的に「穴」ということもあるだろう。巻頭にイギリス元首首相サッチャーとブレヒトの言葉で、貧困、飢餓、暴動について記されているのを見れば、この物語が単に穴からの脱出の物語というのではなく、社会性を帯びていると推測できる。

深い森の中にある深さ七メートルほどの穴に落ちて

しまった兄弟二人。脱けだそうと何週間もがいている。なぜ、二人は穴に落ちてしまったのか。兄弟の手元には袋があつて、中にはパンと乾燥トマト、チーズ、イチジクの実が入っている。そのことが繰り返されていく点が意味ありげで謎めいている。穴の中で飢えていく二人だが、袋の中身に手をつけようとならないのはなぜなのか。母親が自分たちによこした袋だというのが、その母親が自分たちを穴に突き落としたというのは本当なのか。

二人に救いは現れず数週間が経っている。しかし、彼らはけつして絶望することなく、穴から脱出することをあきらめない。兄は脱出のためのトレーニングに余念がない。弟を穴の外に放り投げる力を身につけるためだという。当の弟は脈絡のない幻覚、妄想、自問自答を繰り返すが、脱出への強い望みが内圧となつて理性が耐えきれないかのようにだ。彼の話は悟つた人の口から出る教えのようだったり、ときに詩的で謎めいてもいる。その思いは外の世界へあふれ出そうとしているようだ。

兄弟は母親が自分たちを穴に突き落としたと思ひ込んでいる。母と子の間に何があつたのだろうか。二人は母親を恨んでいるが、しかし、次第にわかってくるように、穴の外の世界が自由がなく人びとが隷属するしかない社会だという点からすると、母親は二人をその隷属から逃れさせるために、わざと穴に突き落としたのではないか。そもそもこの母親というのは何かの象徴なのだろうか。同じように、穴についても、何かの象徴なのではないかという気がしてくる。

「訳者あとがき」には、カミュの小説『ペスト』における不条理や極限状況のなかでの連帯や誠実さについてふれている。そういえば、小説の中のペストが蔓延した町を「穴」ととらえれば、そのなかで必死に行動する人たちの姿と、穴の中で救いもなく虫や木の根を、ときに土を食らい、幻覚や幻想につかれたような兄弟とを重ね合わせることができるようになる。兄弟が仮に穴から脱出して、外にあるのは飢餓や貧困、服従の世界が広がっているというから、穴の内も外もともに救いのない状況であることに変わりはないとい

う点で。

物語のところどころにおかれた蜂起とか檻を開ける鍵、自由になった炎、檻から出てきた群衆……などの言葉には十年ほど前にみた映画「レ・ミゼラブル」を連想する。この物語はどこか古風で、二百年も前のフランスの風景なのかといった感じがする。不思議なのは町の男女が霧の向こうにある影のように姿が明瞭ではないことだ。どんなものを身に着けているか、体はやせているのか、何か叫んだりしゃべったりしているのか、何か武器を手に行っているのか、それが見えない。それと彼ら町の人たちを服従させている権力者の像が薄いのはなぜか。さらに、弟は町の中に入っていたが、彼と群衆はどんな行動をしたのか、「権力者」とのバトルがあったのか、なかったのか、それが見えない。

ふと思うのは、兄弟は「自由」とかの思想を象徴している化身なのだろうかということだった。穴といういわば牢獄の中で弟が語る言葉は、一見、幻覚、妄想が生み出したものかもしれないにしても、それらの言葉は穴においても自由に自在であるような精神

が獲得した世界観といえないだろうか。物語の終末近くで弟は母親を殺すのだが、それは自由を拘束する体制の象徴としての「母親」に終わりを告げたという意味合いなのではないか。つまり母親とはこの町の権力者そのものだったということ。息子たちを救うために穴に落としたのではなく、息子たち（＝自由）が彼女に対して反逆を企てたために穴につき落とされた。そんなふうに想像していた。

この物語は、ひとはいま穴の中にいるのか、または外の町にいるのか、と問うているのかもしれない。穴は、あきらめてしまえば墓穴になってしまう場所だけれども、そこから脱けた弟が向かった世界は、疲弊し、自由はなく人びとは従順で、服従する以外の生活しかない。そのどちら側で生きていくのか。どちらで生きるにしても「自由」こそ大事なのではないかと問いかけてるように思われた。(了)

水田とツバメ (三〇)

佐藤ただし

・若竹色の苗

今年の初め、通りに面した我が家の近くに真新しいビニールハウスが一棟建てられた。間口が三間半、奥行きが七間くらいの大ささで、通りに面した入り口の前はコンクリートで舗装し、車が出入りできるようにしてあった。

そのビニールハウスを建てたのは十数年前に東京からここへ越してきて、無農薬でお米を作り続けている S さんご夫婦だ。奥さんが秋田県出身ということだからに來たようだが、S さんは勤めの傍ら田んぼをやっているということもあり、普段はめったに顔を見ることもなく、田んぼも五、六キロ離れているため、

話をすることもなかった。

春が来て種まきの季節になると、S さんのビニールハウスにもイネの苗箱が並べられ、保護用のシートが掛けられていた。今年からここでイネの苗を育てることにしたのである。

ある日、そのビニールハウスの前を通りかかると、保護シートは剥がされ、ハウスいっぱいにも明るい緑色のイネの苗が敷き詰められていた。その苗の色は田んぼでよく見かける濃い緑色ではなく、黄色に近い、透き通るような明るい緑色で、苗の草丈も一〇センチに満たないような小さい苗だった。

草花や樹木はその植物特有の葉の色を持っているが、イネの葉もこの季節にはこうした明るく淡い緑色なのだろうと思った。苗づくりのときに、あらかじめ苗箱に肥料を入れて苗づくりをしてきた私にはイネの苗本来の色というものが分からない。少し葉の色が落ちてくると肥料切れと思い、追肥をしたりしていたが、元々肥料過多の苗づくりをしていたのかも知れない。

井原豊という農家が、「黄色い健苗」という苗のことを書いた本を若い頃読んだことがあった。その本に

はもともとイネは竹科の植物なので、イネを育てる時は山に生えている竹の葉の色に合わせて作るのが良いと書いてあったと思う。

苗にあまり肥料をやらす、籾の胚乳の養分で育て、苗がお腹を空かした状態で田んぼに植えると、根は田んぼの中によく伸びてゆき、良いイネに育つという考え方だ。そのため春先の頃は若竹色の苗を作っているということだった。これを「黄色い健苗」と名付けていた。ビニールハウスに並べられている苗を見るとまさにそんな感じの苗で、若い苗が瑞々しく育っているように見えた。

朝、たまたま軽トラックでそのハウスの前を通りかかった時、Sさんがハウスの中にいたので、車を止めて話を聞かせてもらった。

Sさんに「肥料を入れずに苗を作っているのですか」と聞くと、にこやかに「そうです」と答え、「農薬も入れてないのですか」と聞くと、同じ表情で「そうです。昔の農業を見ているようだと言われることもあります」と言った。「若竹色の苗ですね」と私が言うと、「そうですね」と笑顔で答えた。

目の前でその淡い緑色の苗を見ると、葉は三枚目と四枚目が出始めていて、草丈も一〇センチくらいでイネの原点を見ているようだった。イネの苗は三葉目頃になると籾の胚乳の養分が僅かになってくるといふ。その時期に植えられたイネは、田んぼの養分を吸って育つてゆく。

こうした苗と比べると、田んぼに広がる青々とした苗は一見健康そうに見えるが、実はかなり無理をして育てていることになる。農家数の減少を補うために、田んぼを受託した農家や農業法人は耕作面積が増えただけを単純に育苗ハウスを増やして苗を作るわけにはゆかないため、苗箱一枚当たりの籾の量を増やし、田んぼ一枚当たりの苗箱の使用数を減らして対応している。その結果、田植えに使われるイネの苗は丈夫で健康的な苗とはなりづらく、ひよろひよろとした徒長苗になり、立ち枯れ病などの病気に弱い苗になりやすい。

また、田んぼに植えられたイネの苗は一株に二から三本植えが理想的だが、機械で植えるため欠株になるのを防ぐためや見栄えを良くするために、ついつい多く植えてしまう。試しに少し多そうな苗を一株抜いて

数えてみると、一〇本以上植えられている。こうした株は苗同士が伸び伸びと育つことが出来ず、窮屈な環境で育つことになる。

イネは強靱な生命力を持った植物だと思っているが、細長い苗を見ると地域の農地を守るために農家はここまで追い詰められているのかと思う。

前に書いた井原豊氏は「農業に明日は無いが、あさってはある」と書いていた。農家数の減少に歯止めがからず、残された農家に負担が増してゆくが、Sさん達が作っている若竹色の苗を見ると、とても明るい気持ちになった。

・繋がる

毎朝畑へ行くのも習慣になり、いつものようにポリバケツに野菜くずや残飯を入れて持って行く。畑に着くと肥塚の上で一羽のガラスが私を待っている。近づく私をチラッと見ながらその間合いを保つように二、三步遠ざかる。肥塚にポリバケツをひっくり返してそ

の場を離れると、そのガラスは嘴で食べられそうなのを探し始める。

この畑でガラスを見かけるようになって五、六年になるが、私はガラスの見分けはできない。しかしガラスのほうではこの時間に私が来るのを知っていて、いつもやって来る。

このガラスは、冬の間五羽いたガラスのうちの一羽だろう。子ガラス達は親元を離れ、新天地を求めて飛んで行ったか、群れのガラスの中に入って暮らしているのかも知れない。それぞれに生きる場所を求めて旅立ったのだろう。気になるのは親鳥のほうで、どちらか一羽に何かあったのではないかと気にかかる。

ここで見かけるこのガラスは私に慣れたせいなのか、野生の厳しさや警戒心はだいぶ消え、一羽の鳥として私のそばに来ているように見える。肥塚の上で煮干しを食べているガラスと目が合った一瞬、この鳥と私は繋がっているという感覚を持った。ガラスも私も、家族があっても無くても、基本的には個で生きていて、この地球上で、それぞれがそれぞれのレイヤー（透明な層のようなもの）で暮らしている。相手はガラスだった

が、繋がっているということは一方向ではなく双方向だということだろう。違ったレイヤーが重なり、私はカラスを通してそちらの世界の中に自分がいるということに気づかされた。カラスも自分の世界に私のようなを受け入れたのかもしれない。境界のない世界にいる子供の頃のようにその実感を取り戻すことができたのは良かった。他（人）を羨むことなく、繋がった世界で生きてゆけそうだ。

春が来てバツケが道ばたに出始める頃になると他の植物も動き始める。と、種苗店の店主は言っていたが、人もこの季節になるとスイッチが入り、田畑で動き始める。そうした意味から言っても人は鳥や植物と繋がっている。

雑記 (32)

横山 仁

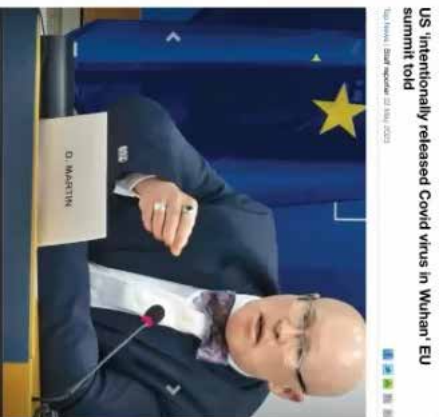
[EU 議会でコロナの起源が明らかに](#)

EU 議会でのデービッド・マーティン博士の証言によると、コロナウイルスの研究が始まったのは1965年頃だという。

英米が共同でデータバンクを構築して、ウイルスの伝播に関するシミュレーションが何度も行われたらしい。

「文殊菩薩」(<http://iiyama16blog.fc2.com/blog-entry-10919.html>) 2023-05-28 から。

(引用開始)



US 'intentionally released Covid virus in Wuhan' EU summit told

The Irish Times

22nd October 2023



また、ノースカロライナ大学では2002年に特定の人に発病させる研究が始まり、その一年後SARS流行が起こった。

フナイザー社は、1990年代にはスパイク・プロテイン入りのワクチンを開発しており、刻き目がないことも知っていた。

[EU 議会 COVID サミットでの発言](#)

つまり、既に60年もの研究がなされた上で、武漢でバラまかれたわけで、その目的はワクチンを打たせることだった。

ようやく、本当のことを話す科学者が出てきたが、60年前にまで研究史をさかのぼる内部告発は貴重である。

野崎晃市 (48)

(引用終わり)

また、suyap さん：2023/05/29 (Mon)：から。(混池に希望を見出す賢者の発信スレー42)

(引用開始)

「文殊菩薩」で紹介がありました。5月3日にブリュッセルのEU議会で開催された第3回コービッド

サミットの冒頭部分で行われたデービッド・マーチン博士のスピーチが、今回の「捏造パンデミック」の構造とコロナの真実をストリートに語っており、たいへんな話題になっています。例によって主流「メディア」からは完無視されていますけど。

<http://iiyama16.blog.fc2.com/blog-entry-10919.html>

彼の英語はハッキリとわかりやすいので、ぜひ生スピーチを聞いていただきたいと思っていたところ、日本語のスーパーストーンポーズを入れたコピーをツイッターで見つけたので紹介します：

<https://twitter.com/i/status/1662818171886383104>

また、このサミットは多くの「目覚めた」医者や研究者が様々なアブローチから発表を行っており、全体で8時間以上にも及びました。その全スピーチを記録したものが、ワロン博士のサプスタックで紹介されています：

<https://rwmalonemd.substack.com/p/videos-the-international-covid-summit/>

こうしてみると、世界の潮流は明らかに変わってきています。この似非パンデミックを仕組んだ者どもが、次のフェーズに移ろうとしています。似非パンデミックで「利用」した有象無象に全責任を押し付けて。

奴らの次の「ヤラセ」を、目をしっかりと開き、耳をかつぼじて、いち早く見破って迎え撃ちたいものです、二度と騙され乗せられないように。

(引用終わり)

また、「及川幸久の THE WISDOM CHANEL」
2023.5.30 では、「世界の SNS で数千万回再生の超重要動画【及川幸久 - BREAKING -】※多言語字幕あり Multirbhal subtitles ※」と、「文殊菩薩」のコロナ騒動を、詳しく解説している。

*

はぐらめいさん（「移ろうままだに 2」より） 2023-05-16。

(引用開始)

ロバート・ケネディ Jr 出馬表明の衝撃性 [【現状把握】](#)

ロバート・ケネディ Jr 出馬表明演説に驚愕した副島隆彦氏の最新発言、《私、副島隆彦は、うろたえた。うろたえて、その後、4日間、頭が、回らなくなった。／ 私のこれまでの、人生の、自覚的に生きただけでも 60 年の人生で、こんな発言が、アメリカ国内から、公然と、起きてこようとは、想像もつかなかった。》その演説内容の肝腎部分が 1 ヶ月近くも日本には伝わらないままだったという現実。《真のアメリカ民衆の願いと、希望が、今、ロバート・ケネディの大統領選への出馬の表明（4月19日）となって、公然と現れた。しかし、ロバート・ケネディの、この「在外米軍、全 800 基地の、世界中からの全面撤退」の公約は、抑えこまれ、押しつぶされて、日本の私たちまで、届か

なかった。届くのに、ようやく一か月かかった(5月12日)。何と言うことだろう。／ このロバート・ケネディJrの、偉大な発言を、押さえつけ、押しつぶし、教えないことの為に、日本のメディア(テレビ、新聞、週刊誌、ネット記事)もある。何ということだろう。なんという、卑劣な連中だろう。》《世界政治の頂点であり、中心であり続けた、アメリカ帝国の中から、自らの、「帝国の終わり」 the end of American empire「ジ・エンド・オブ・アメリカン・エムパイア」を、宣言するに等しい、しかも、それを、高らかに、宣言するような、「在外米軍のすべてを、世界中から、撤収、撤退させる」という、コトバが、アメリカの有力な政治家の家系の人間が、言い放ったのだ。》

(引用終わり)

*

宇山卓栄氏の「民族で読み解く超大国アメリカの興亡」～侵略と混血の2000年史に創られた”人種差別

プロバガンダの闇” 宣伝文句より。

(引用開始)

「民族で読み解く超大国アメリカの興亡」「イエス・キリスト」…誰もこの言葉を聞くと、肌が白くて、赤髪のいわゆる「白人男性」を思い浮かべると思います。しかし、それは白人たちが作り上げたプロバガンダだったことをご存知ですか？
 というのも、イエス・キリストはユダヤ人ですが、イエスが生まれた紀元前後は、ユダヤ人と白人の混血は進んでおらず、ユダヤ人は白人の特徴である金髪碧眼ではなく、髪の毛も目も黒い、髭がモジャモジャのアラブ人に近い顔つきであったのです。

しかし、そのような歴史的事実に反して、イエスだけではなく、聖母マリヤもほとんどの絵画で白人女性として描かれています。

一体それはどうしてなのでしょう？

それは、「神であるイエス」が中東人のような容貌であっては白人にとって都合が悪かったからです。「神であるイエスは白人であるべき」という暗黙の了解が、白人の中で形成されていたのです。

(引用終わり)

「へっぴりごし」さん (<https://ameblo.jp/koro500/entry-12806084466.html>) 2023年06月04日(日)。

【zerohedge】記事より

(引用開始)

虐殺を屁とも思わぬDS：グリーンケンは停戦の呼びかけを却下し、米国はウクライナの軍隊を増強!

グリーンケンは停戦の呼びかけを却下し、米国はウクライナの軍隊を増強しなければならぬと述べている。国務長官は、ワシントンが外交よりも軍国主義を優先し続けるよう求めた…

(引用終わり)

グリーンケンなど、クソで、戦争屋を引用しても馬鹿らしいので短くした。Follow the Money.

要は、「ポードメンバー 参政党代表の松田学さん」の言うとおりでだろう。

(引用開始)

これは日本の安全保障にとっても大問題。台湾有事のために配備する予定だったハイマスがウクライナに割かれるなど、東アジアの平和秩序維持に充てられるはずの米国の軍事資源が手薄になります。日本の有事まで誘発しかねません。米国の軍産共同体にとっては、戦争継続はウクライナに出来た彼らのマーケット拡大そのものですから大歓迎ですし、いくら下院で多数を占めた共和党が戦争継続に疑義を出しても、そうした利権構造をバックとしているバイデンにとって、自ら停戦を決断することは困難。

(引用終わり)

*

かなり以前、FM情報誌（「FM Fan」など）を買って、オーブンリールデッキなどでエアチェックをしたが、アンテナがこわれて処分したこともあり、最近では、FMを聴くこともなくなった。ところが、部屋の片付けをしながら久しぶりにFMチューナーのスイッチを入れてみたところ、アンテナもないのに音がいいのにびっくりした。CDよりもいいくらいだ。

というわけで、時折、FMをつけることがある。

日本の現代音楽への関心も、NHK FM、白石美雪氏の「現代の音楽」によるところがおおきい。

ナクソスレーベルからは、「日本作曲家選輯」が出されていて、武満徹や伊福部昭（「ゴジラ」の作曲者）などのほか、秋田出身の深井史郎の巻には「パロディ的な四重奏」「バリエ音楽『創造』」「交響的映像『ジャワの唄声』」が収録されている。キャッチコピーは、「激

動の時代を生きたモダニストの音楽は、こんなにも新しかった」となっている。

今ネットで調べてみたら、このシリーズでは、26枚出されているようだ。

*

ジェイナルエー茨高店でズリの刺身をみていたら、「寄生虫が付いている時がありますのでしっかりと確認して取り除いてください」という表示があった。タコにはなかったのので一部の刺身（ぶり、わらさ、かつお）のようだった。

ネットで調べてみると、厚労省のホームページに「アニサキスによる食中毒を予防しましょう 生鮮魚介類に寄生したアニサキスによる食中毒が発生しています」とあった。これだな。（次ページ参照）

生鮮魚介類を扱う飲食店・販売店・調理施設・給食施設などの皆さまへ

アニサキスによる食中毒を予防しましょう

生鮮魚介類に寄生したアニサキスによる食中毒が発生しています

アニサキスの特徴

- ◆寄生虫（線虫類）
- ◆約2cm～3cmで、白色の少し太い糸状
- ◆アニサキス幼虫が寄生している魚介類
サバ、アジ、サンマ、カツオ、イワシ、サケ、イカなど



食中毒の症状

アニサキス幼虫が寄生する生鮮魚介類を食べた後、

- ◆数～十数時間後に、激しいみぞおちの痛み、吐き気、嘔吐。

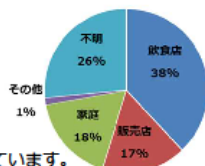
→ 急性胃アニサキス症

- ◆十数時間後以降に、激しい下腹部の痛み。

→ 急性腸アニサキス症

食中毒発生状況

- ◆アニサキスによる食中毒の50%以上が飲食店又は販売店で発生しています。

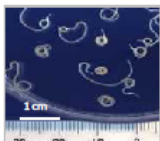


まずは、鮮度を徹底！目視で確認！

- ◆新鮮な魚を選び、速やかに内臓を取り除く。

※アニサキス幼虫は寄生している魚介類が死し、時間が経過すると、内臓から筋肉に移動することが知られています。内臓が付いた魚を仕入れた場合は、速やかに内臓を取り除きましょう。

- ◆魚の内臓を生で提供しない。
- ◆目視で確認して、アニサキス幼虫を除去する。



提供：東京都健康安全研究センター
サバに寄生したアニサキス幼虫の写真

予防方法

さらに、冷凍・加熱が有効！

- ◆冷凍する。（-20℃で24時間以上）
- ◆加熱する。（70℃以上、または60℃なら1分）

※一般的な料理で使う食酢での処理、塩漬、しょうゆやわさびでは、アニサキス幼虫は死滅しません。

厚生労働省ホームページ「アニサキスによる食中毒を予防しましょう」もご覧ください。
<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000042953.html>

厚生労働省

あとがき

◆老母が残していった植木鉢が大分あったので、ダイソーで種を買って植えている。これまでは、ホームセンターで苗を買っていたが、いまは、種から芽が出てくるのがおもしろい。うまくいくかどうかかわからないが、楽しんではいる。(J)

◆家の周りの草取りをしていると、初めて見る草があったり、これまでであった草が消えていたり狭い範囲でしか生えていないことに気付いた。勢力分布の変化か。そう気付いたことに少しばかり妙な満足感を覚えたりしながら、自然の営みとは不思議なものだとあらためて思った。草の分布、これは同人のTに教示願わねば！(B)

◆ヒメジャガといえば秋田市・太平山の山路でみるものとばかり思っていたが、自宅から遠くない所で咲いていた。大森山公園の麓で、細い道路向かいがスギ林。日が射しづらく、ひんやりしているのが、この花には向いているのだろう。いい発見をした。今夜はそれで一杯！(S)

◆朝、畑へ行くとき、ポリバケツを忘れてゆく時がある。畑に着いて、カラスを見て思いつくのだが、何か変な空気が流れ、カラスのほうも所在ない雰囲気だ。そのまま畑仕事をするわけにも行かず、家にバケツを取りに戻るのだが、近くでしっかり待っている。もしかして私の家を知っていて、電線に止まっているのはこのカラスかも、と想ったりする。(T)

「海市」 第32号

2023年6月11日発行

発行 書肆えん

秋田市新屋松美町5-6 横山方